



在京古高同窓会会報
第34号

〒113-0034
東京都文京区湯島3-20-9-707
佐藤清勝税理士事務所内
在京古高同窓会事務局

☎ (03) 5818-267
FAX (03) 5818-267
URL <http://www1.ttcn.ne.jp/~furuko>
Email zaikeyo-furuko@mx5.ttcn.ne.jp
発行責任: 曾根 研一
編集長: 亀井 明
印刷: (株)ケーヨー

在京同窓会メモ

- ・会計年度は4-3月、年会費は一口2,000円です。
- ・会の健全運営のため、振替用紙が同封された方には、納入をお願い致します。
- ・次回会報第35号は2005年6月1日発行予定、原稿は常時受付。

年頭のご挨拶

会長 三浦 澄能



新年あけましておめでとうござい
ます。

皆さまお元気に新春をお迎えの
こととお慶び申し上げます。また、
旧年中に同窓会にいただきました
ご協力にあらためて感謝申し上げ
ます。本年も引き続き宜しくお願
いいたします。

昨年全国各地で自然災害が相
次ぎ、未だに復旧が終わらないま
ま越年した地域も方々でありまし
た。今年も、ようやく景気にも明
さが見え出していますので、その
芽を潰すような災害が起こらない
よう心から祈つてやみません。

さて、わが郷土と母校に關して
いいますと、今年は一ツの大きな
イベントを迎えようとしておりま
す。

一つは台頭している市町村合併
の潮流に沿い、遠田市などの発足
や古川市を核とする近隣合併の最
終調整を迎えていることです。赤
字財政と人口構造の変化という背
景の中で、自治体は効率化とサ

ビス強化という課題を抱えている
だけに、地元では合併が軌道に乗
るまでにはご苦労が多いことと
し。将来の発展のために大同団
結し、新郷土づくりに向かって大
きく前進されますよう声援を送る
ものです。

もう一つの変革は、わが母校が
遂に「男女共学校」として新生す
ることであります。

関係者の努力により準備も進み、
四月のスタート期日待つばかり
です。旧制中学校時代に始まる男
子校として百年以上の歴史と伝
統に培われた同窓生としては、こ
うした変革を前にして感慨もさま
ざまであろうと思ひます。

そのことを通して、やがて共学
卒業生がわが同窓会の一員になる
とき、彼らの社会貢献への行動力
の中に不滅の古高精神を見いだす
ことができるでしょう。

しかし、新制度がスタートする
いま、長い歴史に新たな頁を刻ん
で行くに当たって、われわれ先輩
同窓生として母校に求めることは、
共学による相互啓発など新たな特
色を存分に発揮し、より高いレベ
ルを目指して挑戦してもらいたい
のであります。先生方も生徒も過
去の学業では経験しない問題に直
面しながらも一つ一つ克服して行
たかれんことを!

ともあれ、新しい時代の礎たら
んとする我らの古川高等学校が、
そして先生方ももちろん希望を持
って入学してくる若い後輩たちが
願わくば、たくましい情熱と活力
によって、嘗ての栄光を超える実
力と校風を創り上げ、大きく羽ば
たかれんことを!

お知らせ
第12回古川市内
四校合同新年会

・日時: 平成17年1月29日(土)
11:00~14:45
・会場: 上野精養軒
・会費: 8,000円
・演芸: 三遊亭 円輔

古典落語「火焰太鼓」

交通案内: JR上野駅公園口より
徒歩5分



上野公園4番58号
電話 (3821) 2181

共有の教え

古川高等学校校長
鈴木 克之



明けまして

おめでとうございます。
在京同窓会の皆さまには、お健
やかに新年をお迎えのこととお慶
び申し上げます。日頃の変わらな
いご支援・ご鞭撻に対し、衷心よ
り厚く感謝申し上げます。

昨年は、全国で台風・地震など
の災害が多発しました。幸い、こ
こ大崎では、災害に見舞われるこ
となく豊かな実りの秋を迎えるこ
とができました。産業の景況感と
相まって、心なしか地域全体に活
気が戻り明るく感じられます。

反面、市町村合併が正念場を迎
え、当地方にも時代のうねりが容
赦なく押し寄せています。教育に
おきましては、本校の共学化と古
川女子高の改編(共学化、中学の
開校)が目前に迫っています。共
に大崎の人材育成を中心になって
担ってきた両校の共学化は、地区
の受験地図を大きく変え、地域の
高校教育の様相を一変させること
になると思われま

す。
本校としましては、この歴史的
転換に当たり、その目指す姿を真
剣に模索してまいりました。男子
校百九年の歴史と伝統を大切に、

世紀を越えて果たしてきた古中・
古高の使命を思い起こし、更に、
生徒はもちろんのこと保護者・地
域・同窓生の期待と願いに真摯に
応えるとの決意のもと、「男女を問
わず、大崎一円から最高の知性が
集う、進取の気性に溢れた進学校」
を目指し、その指導を一層強化し
ます。

具体的には、校風として受け継
がれてきた「質実剛健」「学問尊重」
「自主自律」を改めて校訓とし、変
わることをない在学・同窓共有の
教えとして明示しました。服装に
ついては、これまでの私服の経緯
を尊重し女子も私服とする。

高校入試においては、大多数の
生徒の国立立大学進学を念頭に、
推薦・一般とも英語・数学を特に
重視することとしました。

いま学校では、関連する工事が
急ピッチで進められています。主
なもの、女子用のトイレ・更衣
室、街灯及び室内照明の増設です
が、いずれも三月中には完成しま
す。併行して、体育館の新築工事
も行われております。故郷にお帰
りの際は、ぜひ学校にお立ち寄り
いただき、母校の佇まいや仕事の
様子などご覧いただければ幸いに
存じます。

共学校になりまして、母校を
想う皆さまのご心情に思いをいた
し、必ずや誇りと自信に満ちた立
派な古高を築き上げます。何卒、
一層のご理解・ご支援をお願い申
し上げます。

最後に、旧年にも増して皆さま
のご活躍・ご健康を切にお祈り申
し上げ、年頭のご挨拶といたしま
す。

本 部 同 窓 会 だ よ り

新年の挨拶



古高同窓会会長

野村 喜太郎

謹んで新年の挨拶を
申し上げます

旧年後半のプロ野球界はスト騒ぎ、球団の合併、経営権移転等があり、これを契機に宮城球場をホームグラウンドとする東北楽天ゴールデンイーグルスが誕生いたしました。

又、甲子園の全国高校野球選手権大会では、優勝旗が白河の関を越え、更に津軽海峡を飛んで北海道へ。これらは寒い地方、雪国の高校球児に大きな刺激になることと喜んでおります。

同窓会員の慶事としましては、秋の叙勲で古川市商工会議所会頭の狩野壽一氏(高五回卒)が、産業振興功労で旭日小綬章を受章されました。

在京同窓会員の中にも受章された方が居ると思っておりますのでお知らせ下さい。共に慶びたいものです。

母校では共学に備えて施設整備が進んでおります。現在の体育館は昭和四十年に竣工したもので老朽化が進み、修理、修理を重ねてまいりました。

今回を機に体育館を新築することに(県工事)、テニスコートの敷地に新しい体育館の工事が進

行中で夏頃に完成の予定です。

完成時期と合わせて現在の体育館を取り壊し、跡地をテニスコートに造成する予定です。

プールにつきましては、今年の使用時までには塀を高くして外部から見えないようにすることです。工事で騒々しい中、生徒諸君は目的に向かつて頑張っております。

学校側は共学に備えて、各中学校との情報交換、在校生並びに保護者の学校評価、更に先生方の自己評価を基に古高の成績向上に努力しております。

昨年八月の同窓会総会で議決されました「財団法人宮城県古川高等学校育英会に同窓会から五十万円寄付」に付きまして、理事長である鈴木克之学校長を経て寄付致すことができましたので報告致します。

卒業時には在京古高同窓会の東京賞雪賞がありまして、生徒諸君には大きな刺激になっております。ありがたいことです。

進学も段階的に確実に向上してきておりますので、今年春の成績に大いに期待いたして良いと思っております。

年の始めに当たり、三浦会長さんを中心として在京古高同窓会の益々のご発展、皆様のご健祥をお祈りし挨拶と致します。



近 況 報 告

本部同窓会事務局だより



事務局長

清野 千秋

新年明けましておめでとうござ
います。

同窓会への変わらぬご理解ご支援に對しまして御礼申し上げますとともにこれからもよろしくお願
い申し上げます。

昨年の同窓会の様子を報告させていただきます。恒例の夏の総会が八月八日に開催されました。貴会からも遠路はるばる三浦会長に出席を賜り感謝申し上げます。

予算決算等の議事のあと、講演会をもちました。今年度は高五回卒の鈴鴨清美氏から「岐路に立つわが国の学校教育」という題でお話を頂戴しました。鈴鴨先生は県教育長から現在宮城教育大副学長

になられ、一貫して教育界の中枢にいらつしやいました。その先生からまさに変革点にある古高の同窓会総会で講演を頂いたことは、時機を得たものと感じました。

県内の各支部でも総会が開催され、また古高新入生や卒業生への激励電報を送る支部もあり、頑張っております。

卒業生の活躍で特筆されるのは第六回日本クラリネットコンク

ルで一次二次予選通過者七名中二名が本校卒業生だったことです。伊藤圭氏(東京都交響楽団)優勝、芳賀史徳君(東京芸大2年)入賞。今後とも様々な分野での活躍が期待されますと同時に本校の人材の豊富さに誇りを感じます。これらは在校生にとっても大いなる刺激になります。機会を捉えて先輩諸氏のご活躍を披露していきたいと思っております。

さて四月にひかえた共学化への準備は現在(十一月)建物の増改築になっております。工事の騒音が響く中での受験勉強は生徒に對して気の毒な気もいたします。財政難の折、校舎新築はなりません、せめて教室の塗装ぐらい何とかしたいものです。それでも生徒の一部は朝早くから、また夜は下校時間限度まで、同窓会館で自学自習に励んでおります。先生方も昨年の進路実績をさらに伸ばすべく、学習指導に力をいれております。

最近の古高職員の動向で、以前と大きく異なるのは結婚や子供の誕生が多いことで、ここでも職員の異動による変化が窺われます。

来年度からは女子の声が校内に聞こえ、やがて卒業名簿や同窓会にも女子が登場することになります。これも時代の流れといえるのでしよう。県内の某高校では同窓会が共学化に強硬に反対を表明してありますが、個人的にはいろいろなお考えがある中で本校共学化が実現できるのも同窓生の深いご理解によるものと思っております。

新生古高がますます発展できますよう、あわせて同窓会へもよろしくご協力をお願い申し上げます。

すよう、あわせて同窓会へもよろしくご協力をお願い申し上げます。

旧古中・古高 中興の祖
森谷建設株式会社

代表取締役 **森 谷 侑 一**
昭和20年卒

〒336-0923 埼玉県さいたま市緑区大字大間木2395
TEL 048-874-2610

佐 藤 啓 三

(S40年卒 中新田)

中小企業診断士・ISO審査員・エネルギー管理士

KGK ISO (品質・環境)・技術・経営
コンサルティング・グループ
株式会社 経営技術機構 所属

〒105 東京都港区虎ノ門5-3-20 仙石山アネックスビル1階
-0001 TEL 03-5425-2491 FAX 03-5425-2492
自宅 〒241-0004 横浜市旭区中白根2-22-19
携帯 090-1438-9132 E-mail FZN04730@nifty.ne.jp

平成十六年度 総会報告

六月二十六日(日)午前十一時半から平成十六年度在京古高同窓会総会が、神楽坂エミールで開催されました。

この一年、多藤貞徳元副会長、高橋淳夫前会長、三浦良在仙會長の各氏が他界されたこともありまして、校歌斉唱のあと、亡くなった会員への黙祷をもって哀悼の意を捧げました。

亀井編集長(S55年卒)の司会で三浦会長の挨拶のあと、議長は昨年に引き続き鈴木桂吾氏(S26年卒)が務めました。

議事は次の五つの議題について行われ、いずれも原案どおり可決されました。(第一号議案、第四号議案の内容は次頁に掲載)

〈第一号議案〉平成十五年活動報告承認の件
〈第二号議案〉平成十五年度決算報告承認及び監査報告の件
〈第三号議案〉平成十六年度活動計画案承認の件

〈第四号議案〉平成十六年度予算案承認の件
〈第五号議案〉役員改選の件

会長 三浦澄能(S24年卒)
副会長 横山榮治(S20年卒)
副会長 春田紘輔(S27年卒)
副会長 曾根研一(S30年卒)
事務局長 佐藤清勝(S27年卒)
編集長 亀井 明(S55年卒)
監事 青沼康男(S19年卒)
監事 谷地森税(S26年卒)

恒例の講演には、「草創期の本田」から「世界のHONDA」

に携わった昭和二十四年卒の斎藤馨氏にお願いしましたが、その内容につきましては同氏と同期の門脇健氏に、以下に記していただきました。

出席者は五十九名でした。昭和二十年代卒の出席者が例年よりも多く、三十年代卒以降の出席者が大幅に減少するという結果になり、先細り傾向が懸念されます。私も三十年卒は、還暦を迎えた頃から参加者がどんどん増え続けたという例もありますので、三十年代卒後半以降の方々の参加者増を望むところです。消費に活気が戻ってきたようですが、その中心は年配男性の購買力だと言われていますので、元気のいい中高年パワーの結集を期待します。

総会終了後、来賓としてご出席いただいた野村喜太郎同窓会会長、新たに今年度から着任された鈴木克之校長、在仙の公平有史副会長の三氏にご挨拶をいただいたと、横山副会長の乾杯の音頭で懇親会が開かれ、話の輪があちこちに広がり、和やかなうちに会は終了しました。

(文責 曾根)



講演の斎藤馨氏

斎藤馨氏の総会講演

「故本田宗一郎氏の遺伝子」ぜひ在校の諸君に聞かせたい

同窓会総会での斎藤馨さん(元本田技術研究所専務取締役、現社友)の特別講演「故本田宗一郎氏の遺伝子」は、世界一のオートバイづくりで賭けた本田氏と、その薫陶・指導を受けた斎藤さんたちの「夢と汗と人間力」の織りなすドラマであり、時代背景を共有する参加者に、感動と共に戦後史の一端を回想させ、大変好評でした。

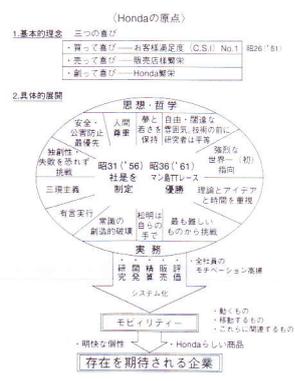
「異色の天才発明家」と新聞等で伝えられていた本田氏のもとで働くことに賭けた斎藤さんが、昭和29年に入社したホンダ(本田技研工業KK)の基本理念は、「お客様は「買って喜び」、販売店は「売って喜び」、HONDAは「創って喜び」——つまり、「三つの喜び」であった。

昭和31年に制定した社是は「わが社は世界的視野に立ち、顧客の要請に応じて性能の優れた廉価な製品を生産する」であるが、この世界的視野の思想は今も脈々と生きていて、オートバイから自動車、ロボット、航空・宇宙への分野拡大や、生産・販売の国際的展開などに実証されている。

本田技研工業KKの年間総売上額は八兆円を越えるが、その5.5%に当たる約四千五百億円が本田技術研究所の年間予算で、約一万一千人が技術分野の調査、研究、開発、設計等にたずさわって「技術のホンダ」を進化、発展させている。

型破りな本田社長の夢の発露でもある松舞台「マン島TTRレース」に向けての社を挙げての取り組みは、遂に昭和36年に優勝の栄冠を得、ホンダのオートバイは国際的な評価を受け、「世界のホンダ」への序幕となった。

夢——目標は実現するためにあり、そのための理念、具体的展開——夢、若さ、自由闊達、独創、挑戦、三現主義、有言実行、世界一指向、社員のモチベーション高揚とシステム化などなど、たくましく脈打っている社風や組織活動は、いわば「本田宗一郎氏の遺伝子」で、斎藤さんがこれらを図解風にまとめたのが、次掲「HONDAの原点」です。



閑話休題。本田宗一郎氏と社員・プレインたちの「モノづくりの夢と汗と喜び」の躍動的な物語りは、勇気が湧いてくるようなすばらしい現代のドキュメンタリーであり、明日に生きる在校生の生徒諸君にもぜひ聞かせたい講演であった、と思う。(文責多謝)

「故本田宗一郎氏の遺伝子」などについてもっと知りたい方には文春新書・片山修著「本田宗一郎と「昭和の男」たち」をおすすめ致します。(24年卒 門脇 健)

平成16年度 総会出席者名簿

[来賓] (4名)

鈴木 克之(学校長) 野村喜太郎(同窓会長 S18) 公平 有史(在仙副会長 S25) 清野 千秋(同窓会事務局長 S43)

[会員] (59名)

Table listing members with columns for year of graduation (e.g., 昭18, 昭24, 昭26, 昭27, 昭28, 昭29, 昭30, 昭32, 昭33) and names of members.

平成15年度 活動報告

平成15年6月1日～平成16年3月31日

| 年月日 | 活動内容 | 場所 |
|-----------|--|-----------|
| 平成15年 | | |
| 5月31日(土) | 会報「蛭雪31号」と総会案内発送 | 信陵会館 |
| 6月28日(土) | 総会・講演会・懇親会 講演 小嶋 進氏 (S47年卒) 演題「挫折乗り越え丸の内」 | 神楽坂エミール |
| 8月10日(日) | 本部同窓会総会出席(曾根副会長・亀井編集長) | 古川市グランド平成 |
| 12月10日(水) | 在京同窓会ホームページ開設 | |
| 12月20日(土) | 会報「蛭雪32号」と古川市内四校合同新年会案内発送 | 信陵会館 |
| 平成16年 | | |
| 1月18日(日) | 「第11回古川市内四校関東同窓会 新年の集い」開催 (幹事校・古工) (古高 93名・古女 75名・古工 41名・古学 34名 来賓 6名 合計249名出席) | 上野精養軒 |
| 3月1日(月) | 古高卒業式並びに「東京蛭雪賞」表彰式出席(三浦会長) | 古川高校 |

◎役員会：信陵会館
 第1回 H.15年 6月14日(土) 15名(総会運営他)
 第2回 H.15年10月25日(土) 14名(総会報告、会報発行準備他)
 第3回 H.15年12月20日(土) 15名(総会準備他)
 第4回 H.16年 3月27日(土) 11名(四校合同新年会報告他)

◎四校合同幹事会：東京文化会館会議室他
 第1回 H.15年10月23日(木)
 第2回 H.15年11月21日(金)
 第3回 H.16年 1月 9日(金)
 第4回 H.16年 2月14日(土)
 古高出席者：春田 佐藤(清) 曾根 渡辺(吉) 岩崎

平成15年度 決算報告

自 平成15年 6月 1日
至 平成16年 3月31日

<収入の部>

| 科目 | 決算額(円) | 予算額(円) | 増減△ | 備考 |
|--------|-----------|-----------|----------|-------------|
| 年会費 | 838,000 | 850,000 | △ 12,000 | 419円 @2,000 |
| 広告料 | 210,000 | 200,000 | 10,000 | 企業・個人広告 |
| 寄付・祝儀金 | 32,000 | 70,000 | △ 38,000 | 個人寄付等 |
| 雑収入 | 171,151 | 160,000 | 11,151 | 総会・新年会 剰余金等 |
| 収入計 | 1,251,151 | 1,280,000 | △ 28,849 | |
| 前期繰越金 | 2,474,698 | 2,474,698 | 0 | |
| 合計 | 3,725,849 | 3,754,698 | △ 28,849 | |

<支出の部>

| 科目 | 決算額(円) | 予算額(円) | 増減△ | 備考 |
|-------|-----------|-----------|-----------|-------------|
| 会議費 | 25,251 | 50,000 | △ 24,749 | 役員会、会場使用料 |
| 印刷費 | 482,000 | 560,000 | △ 78,000 | 会報、案内状、封筒他 |
| 事務用品費 | 25,536 | 30,000 | △ 4,464 | コピー・文具代 |
| 事務所経費 | 30,000 | 30,000 | 0 | 年間契約料他 |
| 通信費 | 120,149 | 300,000 | △ 179,851 | 電話、切手、はがき |
| 慶弔費 | 116,310 | 120,000 | △ 3,690 | 東京蛭雪賞、祝儀、香典 |
| 組織強化費 | 19,487 | 110,000 | △ 90,513 | 若年層対策費 |
| 旅費交通費 | 54,040 | 100,000 | △ 45,960 | 本部総会、卒業式等 |
| 雑費 | 26,185 | 20,000 | 6,185 | |
| 支出計 | 898,958 | 1,320,000 | △ 421,042 | |
| 次期繰越金 | 2,826,891 | 2,434,698 | 392,193 | |
| 合計 | 3,725,849 | 3,754,698 | △ 28,849 | |

次期繰越金 内訳
 預金 小全原郵便局 1,759,021円
 預金 東京三友銀行 112,025円
 口座貯金 (I) 813,190円
 口座貯金 (II) 1,930円
 現金 140,725円
 計 2,826,891円

会計監査の結果、以上の報告書の通り誤りのないことを認めます。

平成16年4月28日

監事 青沼 康 男
 監事 谷地森 税



平成16年度 活動計画

平成16年4月1日～平成17年3月31日

| 年月日 | 活動内容 | 場所 |
|-----------|---|-----------|
| 平成16年 | | |
| 5月29日(土) | 会報「蛭雪33号」と総会案内発送 | 信陵会館 |
| 6月27日(日) | 総会・講演会・懇親会 講演講師 齋藤 馨氏 (S24年卒) 演題 「故・本田宗一郎氏の遺伝子」 | 神楽坂エミール |
| 8月8日(日) | 本部同窓会総会(出席) | 古川市グランド平成 |
| 12月25日(土) | 会報「蛭雪34号」及び四校合同新年会案内の発送 | 信陵会館 |
| 平成17年 | | |
| 1月初旬 | 本部同窓会新年会(出席予定) | 古川市 |
| 1月中旬 | 在仙古高同窓会(出席予定) | 仙台市 |
| 1月29日(土) | 「第12回古川市内四校関東同窓会 新年の集い」開催 (幹事校・古学) | 上野精養軒 |
| 3月1日(火) | 古高卒業式並びに「東京蛭雪賞」表彰式(出席) | 古川高校 |

◎役員会：
 定例は年間3回、その他必要事案により関係役員会を開催
 第1回定例6月12日開催：総会運営

◎四校合同幹事会：
 四校合同新年会(H17.1.29)にむけて、10月中旬から1月中旬までの間に3～4回開催する。
 古高出席者：春田 佐藤(清) 曾根 渡辺(吉) 岩崎

平成16年度 予算

自 平成16年 4月 1日
至 平成17年 3月31日

<収入の部>

| 科目 | 予算額(円) | 前年実績(円) | 増減△ | 備考 |
|--------|-----------|-----------|----------|-------------|
| 年会費 | 840,000 | 838,000 | 2,000 | 420円@2,000 |
| 広告料 | 220,000 | 210,000 | 10,000 | 10,000×22口 |
| 寄付・祝儀金 | 20,000 | 32,000 | △ 12,000 | 個人寄付等 |
| 雑収入 | 150,000 | 171,151 | △ 21,151 | 総会・新年会、剰余金等 |
| 収入計 | 1,230,000 | 1,251,151 | △ 21,151 | |
| 前期繰越金 | 2,826,891 | 2,474,698 | 352,193 | |
| 合計 | 4,056,891 | 3,725,849 | 331,042 | |

<支出の部>

| 科目 | 予算額(円) | 前年実績(円) | 増減△ | 備考 |
|-------|-----------|-----------|---------|--------------|
| 会議費 | 50,000 | 25,251 | 24,749 | 役員会 会場使用料 |
| 印刷費 | 500,000 | 482,000 | 18,000 | 会報、案内状、封筒他 |
| 事務用品費 | 30,000 | 25,536 | 4,464 | コピー・文具代 |
| 事務所経費 | 30,000 | 30,000 | 0 | 年間契約料他 |
| 通信費 | 300,000 | 120,149 | 179,851 | 電話、切手、はがき |
| 慶弔費 | 150,000 | 116,310 | 33,690 | 東京蛭雪賞、祝儀、香典 |
| 組織強化費 | 30,000 | 19,487 | 10,513 | 若年層対策費 |
| 旅費交通費 | 100,000 | 54,040 | 45,960 | 本部・在仙総会、卒業式等 |
| 雑費 | 30,000 | 26,185 | 3,815 | |
| 支出計 | 1,220,000 | 898,958 | 321,042 | |
| 次期繰越金 | 2,836,891 | 2,826,891 | 10,000 | |
| 合計 | 4,056,891 | 3,725,849 | 331,042 | |

伝記による血汗技稿

私の卓球人生(最終回)

26年卒 角田 啓輔

(5) 社会人として

(イ) 入社当初

昭和三十三年、中央大学を卒業、(株)日立製作所に入社する。日立製作所の多賀工場(茨城県日立市)は過去に全日本実業団選手権で優勝の経験を持つ優秀なチームである。入社と同時に東京にて第二回アジア競技大会が開催された。前年、ストックホルムで五対三で辛勝したベトナムと決勝で対戦し、今度は逆に三対五で敗れ、第二位に終わる。シングルも決勝で李国定(台湾)に負けて優勝を逃し、第二位だった。

入社当初は卓球に専念できるようにと配慮から総務部門に配属となり、以後三十歳まで実業団での現役選手として出場した。現役引退と同時に、会社の仕事も資材購買部門へと変わる。

(ロ) 「卓球日本」の復活を目指す

その頃、中国やヨーロッパ勢に押されがみの状態を打破する為、日本卓球協会内に選手強化委員会が発足、その役員を任命され、現役の指導育成に力を注ぐ事になった。将来有望と思われる若手選手に国際試合の経験を積ませる為、海外遠征や外国での合宿訓練等を



訪中日本卓球OB団团长として周恩来首相と会見

実施した。少ない予算で長期(一月〜一・五ヶ月)海外で修業する為には、往復の旅費が馬鹿にならない。ストックホルムでの合宿訓練の際などは、横浜港から船で津軽海峡を通り、日本海に出てソ連邦のナホトカ港へ、船が着くたびにナホトカからハバロフスク行きの夜行寝台特別急行が出る。翌早朝ハバロフスク空港から空路モスクワへ行き、更に飛行機を乗り換えてレニングラードへ、そこからヘリポートでヘルシンキへ、ヘルシンキから列車でスウェーデンに南下、ストックホルムに到着という経路をたどると、当時のソ連国内航空機の料金が西側国際航空運賃と比較して、べらぼうに安かったため、日数は多少かかるが南回りの通常の運賃の半値以下で済ませる事ができた。

この様な努力が徐々に実り、第二十八回リユブリアナ大会では深津尚子が、第二十九回ストックホルム大会では長谷川信彦、森沢幸子等が世界チャンピオンになっている。(イ) 役目を果たして

卓球界にお世話になった恩返しのため引受け強化委員長も、その後の会社業務の繁忙から両立が難しくなってきたので、日本卓球協会の役員を辞任する事にし、以後卓球から遠ざかり地元茨城県での活動に限定した。昭和四十七年九月に3A(アジア、アフリカ、ラテンアメリカの略称)大会が中国の北京市で開催された。その時に中国側から大会の記念行事として、日本の元選手、役員計十名が招待された。後で判った事だが、招待の理由は中国の卓球発展に貢献したという事だったので、訪中のメンバーが発表された。「訪中日本卓球OB団」の团长を任命されたので、早速団の編成に取り掛かる。大会終了後も国内の観光地を始め、希望するところ何処にでも案内してもらった。行く先々で熱烈に歓迎され、約一ヶ月半の滞在がアツという間に過ぎ去った幹事だった。特にOB団はバスによる移動だが、团长だけは専用お抱え運転手付の乗用車が用意されて、何処に行くにも通訳同行で、皆と一緒にバスで行くと言っても「運転手の仕事はなくなるから」といつて受け入れてもらえなかったのが意外だった。各地でエキジビジョンマッチを行ったが、私の現役時代の試合の審判をやったという人が、現役を引退して十七八年振りに訪中した際も同じ職業の審判をやっているとの事だった。



団体優勝の表彰(左から荻村主将、田中、角田、宮田、程塚監督)

(ニ) 結び

卓球を通じ、色々な事を学んだ。苦しかった事、悔しかった事、楽しかった事、嬉しかった事、一つ一つの事に一心不乱に突き進んで来られた事に、人生の幸せを感じるような年齢になったかと感慨無量である。現在は、荻村、田中の両名が既に故人となり、世界選手権に出場した日本代表選手で構成している「名球会」の会長を仰せつかっており、年一回の顔合わせを楽しみにしている昨今である。

思いつくままに書き始めた「私の卓球人生」も連載となり、ずいぶん長々となつてしまった。次の投稿を待っている方々に大変失礼しました。紙面を借りてお詫び申し上げます。(完)

同窓会、三位一体「老」「社」「青」集合、これだ!

積水工業株式会社

空調・衛生・電気工事

S28卒 取締役会長 金子 康

本社 目黒 (03)3793-5711 仙台支店 (022)235-7009

“アウトソーシングを支援する”

パルスタッフ株式会社

代表取締役 渡邊 道雄

S28年卒 (鹿島台町)

本社 〒166-0002 東京都杉並区高円寺北1-4-10

TEL 03-5343-5821 FAX 03-5343-5822

立川営業所 (042-528-8585) 神奈川営業所 (0462-77-0791) 甲府営業所 (0551-21-2046)

E-mail: m.watanabe@palsbk.co.jp

古高二期会同期会報告

25年卒 工藤英三郎

古高二期会の今年の同級会を十一月五日(金)に松島の「大観荘」にて行いました。

恩師二人と、私たちは十九名の出席でした。

例年ですと三十名以上集まるのですが、今年は急に少ない人数になってしまいました。欠席の理由は殆ど身体の不調ということと、そしてまた今年は、三名亡くなっております。

庄司・鈴木両先生の挨拶、そして代表の片瀬会長、今回当番の仙台代表の公平君、最後に在京の私・工藤が一年の行事や近況を話しました。

出席した人達はさすがに元気で遅くまで飲み、語り明かしました。次回は東京が当番です。再会を約して散会しました。



二期会同期会 (於: 松島 大観荘)

各組代表が「学校の思い出話やクラスの特徴とか、趣味や近況など」を各自十分ぐらひ話したが、爆笑が相次ぎ、格好の酒の肴となっていた。又、在仙会の佐川剛君が今春の瑞宝小綬章受賞に伴う謝辞を述べ、皆に酔いの廻った頃には、柚木君、新柵君、角田君、遠藤君、谷地森君その他の者による飛び入りの楽しい話が続ぎ、大いに盛り上がった。更に宴も酣となるや、昔、国分町でピアノを営んだ小野弘司君の巧みなピアノ伴奏で、校歌・応援歌の他に当時の懐かしい歌までも、旧制中・高校の「戻って

古高三期生仙台大会の開催について

26年卒 鈴木 桂吾

三年毎の古高三期生全体会が去る十月二十七日(水)午後四時から、仙台駅東口の仙台ガーデンパレスで開催された。参加者は三十九人(先生二)で、前回、平成十三年の古川大会(鳴子温泉)の四十四人(先生三)と、前々回、平成十年の東京大会(赤坂東急ホテル)の四十八人(先生四)に比べて減少の傾向は、会員の老齢化に依るもので止むを得ぬ仕儀であらう。

来賓の鈴木弘先生の他、在仙会は十九人、古川会は十二人、在京会は七人の出席だった。

会は、在仙会押元君の流れるような名司会により、開会宣言と物

故同期生五十三名への黙祷の後、在京会遠藤君の乾杯で楽しい同期の宴が始まった。先ず「鈴木弘先生(数学)はすっかり好々爺に変わり、学校の思い出話や多趣味な近況をお話され、次いで司会の指名で、各組代表が「学校の思い出話やクラスの特徴とか、趣味や近況など」を各自十分ぐらひ話したが、爆笑が相次ぎ、格好の酒の肴となっていた。

又、在仙会の佐川剛君が今春の瑞宝小綬章受賞に伴う謝辞を述べ、皆に酔いの廻った頃には、柚木君、新柵君、角田君、遠藤君、谷地森君その他の者による飛び入りの楽しい話が続ぎ、大いに盛り上がった。更に宴も酣となるや、昔、国分町でピアノを営んだ小野弘司君の巧みなピアノ伴奏で、校歌・応援歌の他に当時の懐かしい歌までも、旧制中・高校の「戻って

何度も繰り返し、時限の午後七時を過ぎるも止む気配が無く、且つ卒業以来五十三年振りに逢う顔も有り、大いに久闊を叙すことの出来た楽しい会であった。かくて午後七時半和氣謁講裡に散会したが、押元君他在仙会役員の努力に感謝したい。

秋麗の 瑞鳳殿や 三期会

古川高校三期会



三期会仙台大会 (於: 仙台ガーデンパレス)

在京燦燦会

「青春にもどる」
27年卒 春田 絃輔

昭和二十七年三月に古川高等学校を卒業した私達の同期会は、燦燦会と名付けております。関東地区には、現在連絡のとれる会員が五十五名おります。毎年十一月に総会・忘年会を開催しておりますが、今年十一月二十七日(土)にJR田端駅前の田端荘(JR直営)に集合しました。

例年二十名程度でしたが今年は、

国の勲章受章者が四名も出席することもあってか二十八名が出席しました。

本部燦燦会からは、会代表の伊藤祐造、中島正二、鈴木進の三氏が出席してくれました。伊藤氏は、秋の叙勲で藍綬褒章を受章されました。中島氏は、バスケット部が県大会で優勝したときのマネージャーであります。また鈴木氏は、野球部が県大会で初めて優勝したときの主将を務めた人であります。

そういう人を迎えて、在京会員もまたこれに劣らぬ人材であります。

春田が司会を務め、在京代表として大内史彦君(元三井物産監査役)の挨拶から始まりました。そして、瑞宝中綬章八嶋幸彦君(元警察大学校長)、瑞宝小綬章の丸洋君(元自衛隊岐阜病院院長)、瑞宝小綬章の佐藤清勝君(在京事務局長)、藍綬褒章の伊藤祐造君(中新田選挙管理委員)の順で喜びの言葉がありました。

乾杯は、卒業以来初めてという大場恒明君に、今迄の不参加を反省し、今後の貢献を表明するという意味で指名され、ここからいよいよ本番に入ったという次第であります。

あとはどの会でも同じような光景で「やあやあ」、「おれはな」、「んだっちゃ」という調子で時間を忘れ、飲んで騒いで、古希と思えない青春にもどる、昔の古高生としての二時間でした。なかでも、乾杯の大場君は、日本女子大と神奈川大で仏文学を教えていたこともあり、娘さんが教え子という会員もいて、さらに引退後は甲府の山奥に農園を開いて、自然と伴って過ごしているとあって大人気でした。

(左面に続く)

日曜大工園芸用品卸 貸ビル、貸マンション業

株式会社 佐々木商事 代表取締役
株式会社 アクアベンドジャパン 代表取締役副社長

佐々木 光一路 (昭和33年卒)

〒144 東京都大田区南蒲田1-1-21 佐々木ビル
-0035 第一京浜国道沿い京急蒲田駅前
電話 (3739) 2468
FAX (3732) 7700
HOT Line 090 3202 6393

CALS/EC(公共事業支援統合情報システム)

専任スタッフ・有資格

電子納品作成支援
おまかせください!

導入から成果品まで専任スタッフがきめ細かく対応しバックアップいたします。

| | |
|-----------------|----|
| CALS/ECインストラクター | 4名 |
| 電子化ファイリング | 5名 |
| ファイリングデザイナー | 2名 |
| 文書情報管理士 | 5名 |

代表取締役会長 早坂清吉 (昭和29年卒)



http://www.keyo.co.jp E-mail:info@keyo.co.jp
本社 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-1-6 03-3242-0191 FAX 03-3242-0167
横浜支店 〒221-0028 横浜市中区鶴町2-7-10 045-664-2911 FAX 045-664-2908

(右面から続く)
紙面もありほんのさわりだけの報告といたします。



榎 榎 会 (於: 田端荘)

古高第七回卒業五十周年同期会

30年卒 渡辺 吉郎

平成十六年十月十七日(日)、鳴子観光ホテルに於いて、定刻通り古高七回卒業同期会が始まり、校歌・凶南歌斉唱、物故同期生に黙祷、世話人代表西巻氏の挨拶、米国在住で今回のために来日、同期会初参加となる浅野和夫氏の乾杯の音頭で懇親会に移り、酔いが増すにつれ、会話も滑らかに、家事他諸般の話が尚一層座を盛り上げてくれました。
顧みること五十年前、在学中の世相がどうであったか一寸調べることにしました。政治は吉田内閣、

社会面は恐妻、火災(八頭身)死の灰、戦力なき軍隊と紙面を飾っていた時代です。少しはタイムスリップ出来たでしょうか。

この時期に学んだ同期生三百名6クラス編成で、今回の出席者は1組十一名、2組十五名、3組七名、4組九名、5組十三名、6組五名、合計六十名でした。尚、同期の物故者判明分だけで四十四名。(合掌)
今回の出席者は年令六十七歳以上で、今尚現役で企業に勤務、多士済々の仲間の集まりでした。

翌朝早起きして鳴子駅前足湯に浸かり、朝市の見学。それで今回の予定はとゴルフ組あり、仕事の都合で帰る組ありと分かれ、何気なく話が出て折角来たのですから鳴子峽谷を歩きましょうと、五十年振りの散策となりました。

紅葉には一寸早いかなど想いつつ、清流には元気な、山の清流で生息する魚が沢山泳いでいるのが見られました。



第七回卒業 卒業50周年同期会 (於: 鳴子観光ホテル)

散歩の途中、誰からともなく青年時の光景を思い出させる様な会話が有り、楽しい一時でした。早坂君、送迎にお世話になりました。

卒業以来久方ぶりに会った仲間、その変化に驚き、感激した次第です。仲間達にありがとう。感謝いたしました。再会を楽しみに！
みんな健康にくれぐれも注意して下さい。

会員通信

●母校の全国大会(東京開催) 出場を事前に知らせてもらえれば応援に行きます。(S7 杉下 功兵衛)

●老いて増々旺々なり、子供達が皆海外なので、海外生活を楽しんでおります。(S14 佐藤 裕郎)

●母校の教育事情の危機が話題になったのも杞憂に過ぎなくなった御由、お喜び申し上げます。(S16 渡辺 常雄)

●毎回会報を楽しみ、懐かしく読んでいます。編集で「善意」の方様。(S22 大曾 根良衛)

●前号の「会員通信」で山田四郎君から、「川渡の鈴木桂吾さんは母方のいとこで50年も会ってませんが、会報32号の記事は懐かしく見ました」とありました。電話してもなかなか通せず、その後、帰郷していることが判明、連絡が付き懐かしさが蘇りました。(S26 鈴木 桂吾)

●いつも会報送っていただき有りがとうございます。ふるさとを想い浮かべ愛読しています。(S28 藤海 勇)

●Uターン帰郷後10年になりましたが、いずれ存命中に必ず出席します。(S28 山田 四郎)

●週に2日位アルバイト(テレビ制作技術関連)をしています。(S29 関口 克)

●ボランティアと趣味(詩吟)に時間をとられ、忙し過ぎています。您々自適にはほど遠い生活です。(S29 佐藤 廣)

●ライフワークの方向が見出せそうですが、もう少し勉強と情報収集が必要。物忘れが少ないうちに。(S29 菊地 務)

●突も泊り、酒断ちの日々。自分のペースで中国語に挑戦したり、旅行に出掛けたりのノンビリ人生です。(S29 豊田 哲夫)

●山登り、ゴルフ、卓球、街ウォーキング、読書、旅行、町内会……。やることが多いが楽しいです。(S29 三浦 憲一)

●NHKラジオ深夜便のニュース・デスクなどをしていました。(S30 木村 哲弥)

●4月より、イランのテヘランで仕事をしております。(S30 佐藤 武男)

●母校も復活のきざしが表れて来てたによりです。今後に期待致します。(S31 相澤 昭男)

●古川に行つて来ましたが閉店どころが多く、子供達が少ない街の印象でした。32年卒在京同期会(3月6日)25名で盛会でした。(S32 佐々木 勝也)

●約9年のインドネシア駐在を終え帰国し、62歳で約40年勤務(内22年間海外駐在)した味の素株退職。母校中央大理工学部同窓会の依頼で、海外経験を講演予定。(S35 我妻 一美)

●「蜜雪」にて卒業生の皆様のご発展と在校生のご活躍に接し、大変勇気づけられます。(S36 長井 清)

●HPが出来た由。早速アクセスしてみます。「蜜雪」が楽しみです。築高戦、凶南歌、校歌等想い出深く拝読。多才な人材でNPOが立ち上がらないかと。アポロ役(会報33号「会員消息」参照)も楽しみです。(S36 菅原 徹)

●半導体デバイス関係の事業環境もようやく向上になり、活気が出つつあります。(S46 NPEC エレクトロニクス 篠岡 邦彦)

●札幌での生活も3年目です。東京に戻りましたら出席します。保険修也さん(S48年卒)も同じNHK札幌にいます。(S52 NHK札幌放送局 ニュース 平野 幸三)

●人事異動による東京赴任のため短期間ではありますが、在京同窓会の方お世話になります。(S54 仙台市東京事務所副所長 小嶋 一利)

●在京同窓会を、より盛り上げていけるよう、自分が出来る限りの努力はしていきたいです。(H8 須野 宗隆)

特定非営利活動法人

日本刀剣保存会

理事長 **宮野 貞 司**

S34年卒

〒142-0053

東京都品川区中延3-13-17

TEL・FAX 03-3782-5326

士 理 士 青 沼 康 男

税 理 士 不動産鑑定士

(昭和19年卒)

〒108 東京都港区芝4-6-16 ライオンズ三田805

-0014

TEL 03-3452-2004

FAX 03-5476-8006

庄司芳武先生を囲む会

—古高音楽部OB会—
30年卒 曾根 研一

11月27日(土)、古川のグランド平成で「庄司芳武先生を囲む会」が音楽部(合唱・マンドリン・吹奏楽)同窓生有志により催され、30名が出席しました。先生が古高を去られてから40年、その教えを受けた私達の年齢も喜寿から還暦(1回卒〜18回卒)までになったのだそうです。

会場に入ると、会の名称が「庄司芳武先生を囲み奥様の喜寿を祝う会」に変更され、全員ではありませんが、お孫さんを含めた「庄司ファミリー」も同席されており

ました。先生のモットーは、特に部活動においては「リーダーの養成」でした。このことから、大学で音楽を専攻して音楽教師になる生徒が続出。その「庄んつあんの遺伝子」を受け継いだ音楽教師たちが、今度は多くのプロの音楽家を誕生させることになりました。音楽家になって活躍したり、仙台フィルは勿論のこと、東京交響楽団・東京フィルハーモニー交響楽団・東京都交響楽団にも古高吹奏楽部OBが在籍しており、さらに東京芸大他の音楽大学にプロ演奏家の予備軍が何人も学んでいる状況です。

「在京」からの出席は、36年卒の片倉康・齋藤武夫両君、二年前の「四校」で講演をお願いした37年卒の佐々木敦元NHKアナウンサーと私の四名でした。

古高のあと、鳴子小や中新田中の校長などを歴任された先生は、今年85歳ですが大変お元気で、今でも看護学校で教えておられます。

八年前の「喜寿を祝う会」以来の集まりでしたが、次回は三年後の「米寿」で再会することになります。



「庄司芳武先生を囲み、奥様の喜寿を祝う会」(於：古川市グランド平成)

会
員
消
息

☆木村哲弥氏(昭和30年卒)

木村哲弥氏(高清水町出身)は、東北大学文学部卒。在学中は男声合唱団に所属。卒業後NHKに入局し、主に報道局社会部記者として活躍しました。

囲碁に興味のある方や、定年後の趣味を楽しんでいる方に参考になればと思い、日本棋院が発行している「月刊・碁ワールド」(平成16年9月号)に掲載されたのを以下に転載いたします。(曾根)

「三千局」

定年のとき、趣味の一つに囲碁を選択してよかったと思っている。サラリーマン時代には仕事が忙しく、ルールを覚えた程度で終わっていた。60歳で初めて碁会所を訪れ、約千局打って初段の免状を得た。

ところが、それからが大変。学生時代の友人の高段者に打ってもらっても、ビールを飲むのが目的だったとして、前進できず悩む日々が続いた。でも、あきらめず毎日何らかの形で囲碁と接し、最近、三千局目で念願の二段を獲得した。おかげで、さらに上を目指す勇気が湧いてきた。(木村哲弥)

心よりご冥福をお祈りいたします

大崎 和氏(昭23年卒) 平13年1月

大場義夫氏(昭29年卒) 平16年3月21日

岡崎壮志氏(昭30年卒) 平16年6月3日

編
集
後
記

ホームページは開設以来あまり更新を行っていませんでしたが、今年には定期的な更新を図りたいと思っております。また名簿とは別に会員の詳細なプロフィールがわかるデータベースを作成中です。

また、今後は「ソーシャルネットワーキング」の流れの中で、同窓会が持つ意味を考えていく必要があると思います。同窓会でしか得られないものは何か? 難しい時代になってきました。(亀井)

HUMAN USER COMPANY
HUSER
住まい選びはヒューザーへ

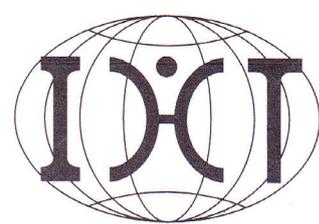
「スカイプラット31」オープン!
110㎡マンション展望ギャラリー

東京駅徒歩1分の夢展望台



SKY PLAT 31
東京駅八重洲南口31階に誕生!
OPEN 10:00 CLOSE 22:00
フリードリンクサービス・ネット検索コーナー

株式会社ヒューザー 代表取締役 小嶋 進(古高47年卒)
〒100-6231 東京都千代田区丸の内1丁目11番1号
パシフィックセンチュリープレイス丸の内31階
☎03-3284-0123 FAX 03-3284-0120
URL http://www.huser.co.jp E-mail: info@huser.co.jp



30年のキャリアと世界のネットワークを駆使し、個人の旅行、グループ研修、修学旅行のお手伝いをさせていただきます。
～同郷の皆様、ぜひお気軽にご相談ください～

(株)インターナショナルヒューマン トラベル
代表取締役社長 中鉢 泰平/鳴子出身・S37卒

〒164-0001 東京都中野区中野2-29-15-204
TEL・FAX 03-5385-3693